

## 大空の劇場

新城 岩夫

病室を出て病棟の外に出た  
夕風が頬を撫でて「こんばんは」  
駐車場の向こうに草原のような芝生が広がる  
その青芝の絨毯を指してどんだん  
歩いた

白い石垣が芝生を囲んでいる

石垣を背に芝生に座って暮れなずむ夕空を

眺めた

すでにドラマは始まっていた

灰色の雲の舞台の上で

夕日に染められた踊り子たちが登場して踊り始めた

背景に城が現れて壮大なオペレッタに

変わった

野外劇場の特上席

どこの城だろう

ルートヴィッヒ二世王の築いたノイシュバンシュタインに似る

二年前に訪れたその城主の人生ドラマが

思い出されて

ドラマの展開が真に迫る

舞台を矢のように走り去る黒い影

そこに黒雲が立ち現れたかと思うと

その頂きがぱつと割れて白銀色の光が

広がった

固唾を吞んで登場人物を待つ

実際には現れなかった

自分の想像力で天使を登場させた

光の色が変わった

舞台の役者と観客のコラボのオペレッタ

夜の帳が辺りを包み始めた

大空の劇場も終幕に近づく

たった一人の観客の私

大空の劇場